

単位の実質化に向けての課題

基礎教育センター長 上野 淳

厳格な成績管理を含めた「単位の実質化」が当面の重要課題であることは、前号でも記した。このためには、

- ・成績評価の適正化・厳格化のシステム構築
- ・自宅学習を含めた授業外学習時間の確保のための方策の検討

などに明確な指針を提示することが、大学として求められているといえる。

前者については幸いにして、今年度、基礎教育部会の元の都市教養プログラム部会、基礎教ゼミ部会にて深い議論が行われ、全学合意の元に一定の指針や申し合わせが成立するまでに至った。元々、実践英語では全学統一テストによる厳格な成績評定が既に行われており、又、情報教育検討部会でも同様な指針が成立したので、本学の基礎教養課程では一応の態勢が整ったものと理解している。又、都市環境学部や理工学系でも学部独自の指針制定が実現しており、今後はこれらの共通理解の元に成績評価の適正化が進展・深化することを期待している。但し、この点についても継続的な検証が必要であり、この意味でも、当FD委員会の役割は重要となろう。

後者も、単位の実質化において重要な課題である。教員が各担当授業においてこのことを実現するための様々な工夫を行っていくことが求められているといえるが、既に有意な実践もみられるようになっている。これらを規範として、全学理解に向けた研修が課題となつてこよう。しかし、教員の努力に頼るだけでは自ずと限界があり、事態は容易には進展しないであろうことも明白である。大人数講義の是正、基幹科目へのTA等の導入、など組織的な支援を行っていくことが肝要となる。この点についても、教務委員会、FD委員会での基本的な議論が必要になってくる。大きな課題と認識している。

